



るのか、結局私が飲んでいいのか???懇親会ということでお許し下さい。静岡らしい芸能の実演などはどれもすばらしいものでした。余談ですが、出席者で視察も兼ねた来年度開催の大阪府支部の先生が「来年は大阪らしいものつてなんやろか?よしもの芸人呼んでくるしかないやろか」と頭を悩ませていらつしやいました。

ところで、発表を翌日に控えた青森県の斎藤拓哉先生とは、珠算月刊誌「サンライズ」の執筆者仲間なのですが、前年度発表の宮城忍人先生(別名、一気飲み?飲ませ?同じくサンライズの執筆者)につかまっては大変と、緊張した面持ちが印象的でした。もともと、普段の私のすつぴんに髪の毛跳ねっぱなし&Tシャツにジーンズ?からへんしん!すまし顔の私の方がインパクトがあつたのかも?!「顔がちがう?わからなかった?どうしちゃったの?」とご指摘?を受けっぱなしでした。言葉がありません:

こうして遠方でなかなか直接お会いする機会が少ない先生方だけでなく初対面の先生との交流、あまりお話ししたことがなかった静岡県の先生方とも競技の話をするのができたり、とても楽しい時間を過ごさせていただきまして。これ以上書くと私の悪行もバレて



用語も具体的に解説しながらの講演に、わかりやすいと感じながら受講したつもりでした...ところが、いざ復習しようとすると残念

ながら論理的にたどれないのです。力不足痛感!! 話はそれでしたが、私の指導順序として、理論的、概念的に説明を入れて運珠を説明しているのですが、いつまでも具体像だけではダメで、抽象的な発想に転換していく事が必要との上垣先生のお言葉に、算数や数字への橋渡しのヒントがあるような気がしました。やはり、算数教育と手を携えてそろばん教育が進むことが重要との観点を念頭に置いて今後も指導していきたいと思えます。

まずは第一に設備投資の桁違いの金額

「講演」

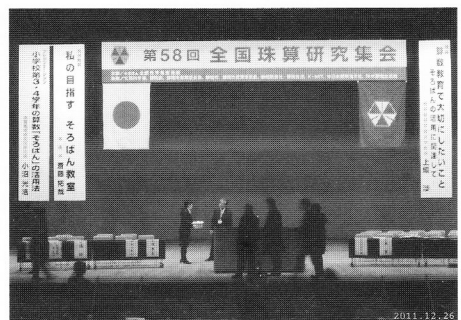
講師は岐阜聖徳学園大学教授の上垣渉先生(以下、上垣先生と略)、演題は「算数教育で大切にしたこと」そろばんの活用に関連して「これも私が大変興味のあるところではあります、なかなかそろばんで手一杯でござなりにはいるので、しっかりと聴かなくは!との思いを胸に臨みました。一見難解に思われる数学用語、学術用語も具体的に解説しながらの講演に、わかりやすいと感じながら受講したつもりでした...ところが、いざ復習しようとすると残念

「実践発表」

発表は前述の斎藤拓哉先生(以下、斎藤先生と略)です。私と同世代の斎藤先生ですが、実績には驚くばかりです。サンライズでの原稿や以前にお話ししたことだけではない指導上の秘訣をまだまだお聞きしたいと願っていたところ、今回の機会に恵まれました。テキストを見ると、暗算指導の点についてさらに詳しくお話しただけの事が予想され、期待がどんどん膨らみました。

「実践発表」

まだまだ驚くばかりでした。次に暗算指導のステップの細かさに、目から鱗が落ちるという表現がピッタリでした。私自身、そろばんの初歩指導から自作教材を用いて細かく指導をしているつもりではありましたが、暗算となると「そろばんをやったことをそのままやろう」の一言だけのようないろいろな気がしてなりません。参考になつた視点や教材があまりに豊富でここに書ききれないのが残念ですが、乗算の桁幅を増やすための指導教材など、帰宅後、早速エクセルとにらめっこして作成しました。早く生徒に試したい気持ちに駆り立てられます。



です。私自身、なぜこんなにお金がかかるんだろ、かけてしまふの痛感しなごらの経営状態ですが、まだ